

2011～2030年度

高松市

水環境

基本計画

未来の子どもたちに
持続可能な水環境を引き継ぐために

生活用水、農業用水、工業用水、景観としての水、親水空間としての水など、水は、多様な機能や形態を持っています。このような水の持つ多面的な価値を、最大限に発揮させるシステムを構築し、世代を超えて引き継いでいくこと、すなわち、「**持続可能な水環境の形成**」が求められています。

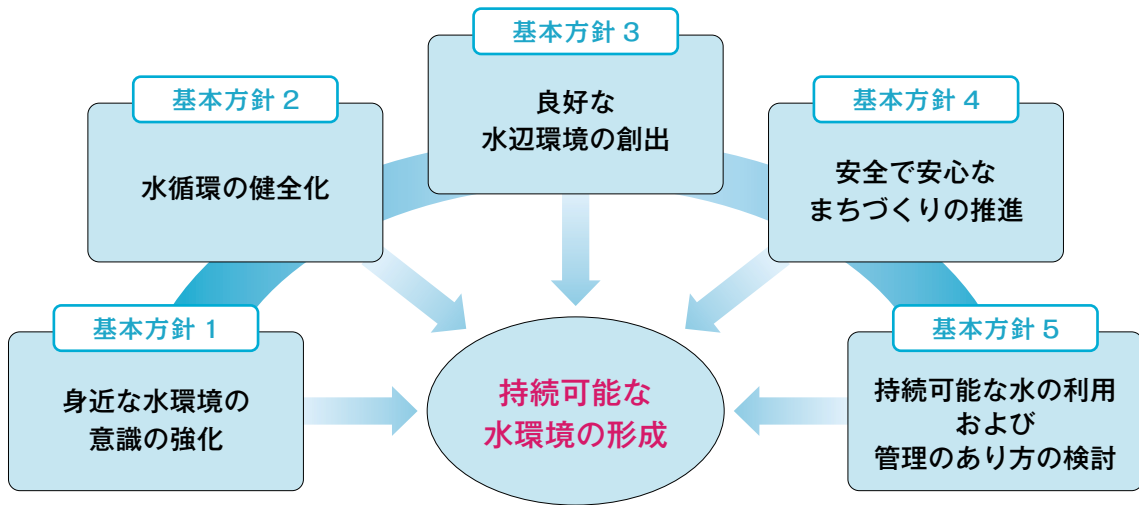
本市では、市・市民・事業者が連携して、「持続可能な水環境の形成」に関する施策を総合的・計画的に推進するため、平成22年9月に「高松市持続可能な水環境の形成に関する条例」を制定しました。「高松市水環境基本計画」は、この条例に基づき、持続可能な水環境の形成に向け、基本方針や目標、施策の方向性を示したものです。

平成23(2011)年3月 策定
令和2(2020)年3月 改定

高松市

基本方針

「持続可能な水環境の形成」のため、今後取り組んでいく基本的な方針を、条例に定める5つの「基本的施策」に基づき、次の5つとしています。

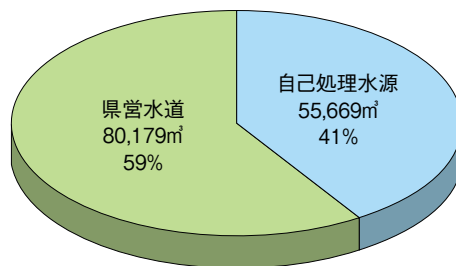


高松の水環境の現状・特徴

高松の年間平均降水量は、高知市の約半分程度の約 1,100 mmで、降水量が非常に少ない地域です。近年では、香川用水の水源である早明浦ダム周辺の少雨傾向もあり、湯水が頻発しています。現在、水道の水源として、約6割を香川用水に依存しているため、香川用水の取水制限は、本市の水事情に大きな影響を及ぼします。

また、本市における1人1日当たりの平均水使用量は、平成10年の351リットルをピークとして、年々、減少していますが、一方で、水道の用途が「家庭用」となっている水量は、近年、ほぼ横ばいの状態となっています。

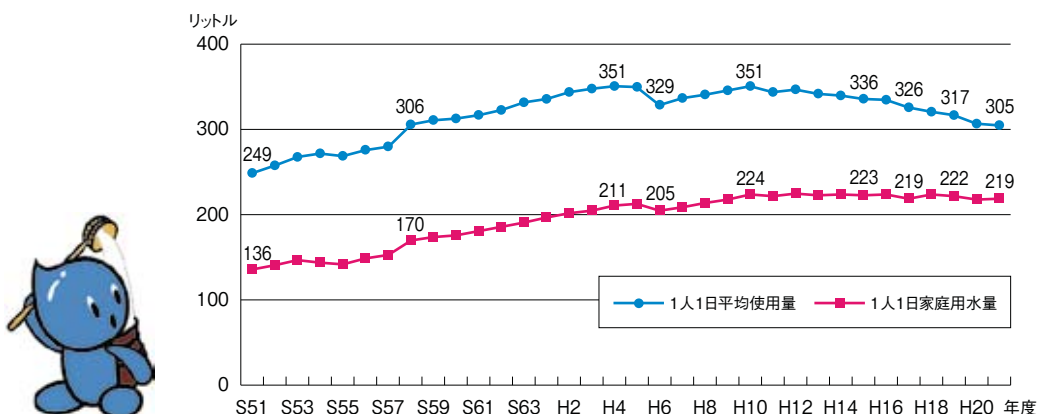
■ 水道水源の割合



※「高松の水環境の現状・特徴」については、平成23年3月の計画策定時に分析した内容を記載しています。

平成21年度1日平均給水量
全体 135,848 m³

■ 1人1日平均使用量および家庭用水量



水環境を取り巻く現況と将来の姿・目指すべき目標

高松の水環境の現状・特徴を踏まえる中で、本市の水環境を取り巻く現況と、そこから想定される本市の将来の姿を整理すると、以下の6つの視点を挙げることができます。

基本計画では、これらの想定される将来の姿などから、5つの基本方針の下に、今後、目指していく13の「目標」と「施策の方向性」を、次のページのとおり定めました。

水環境を取り巻く現況と将来の姿

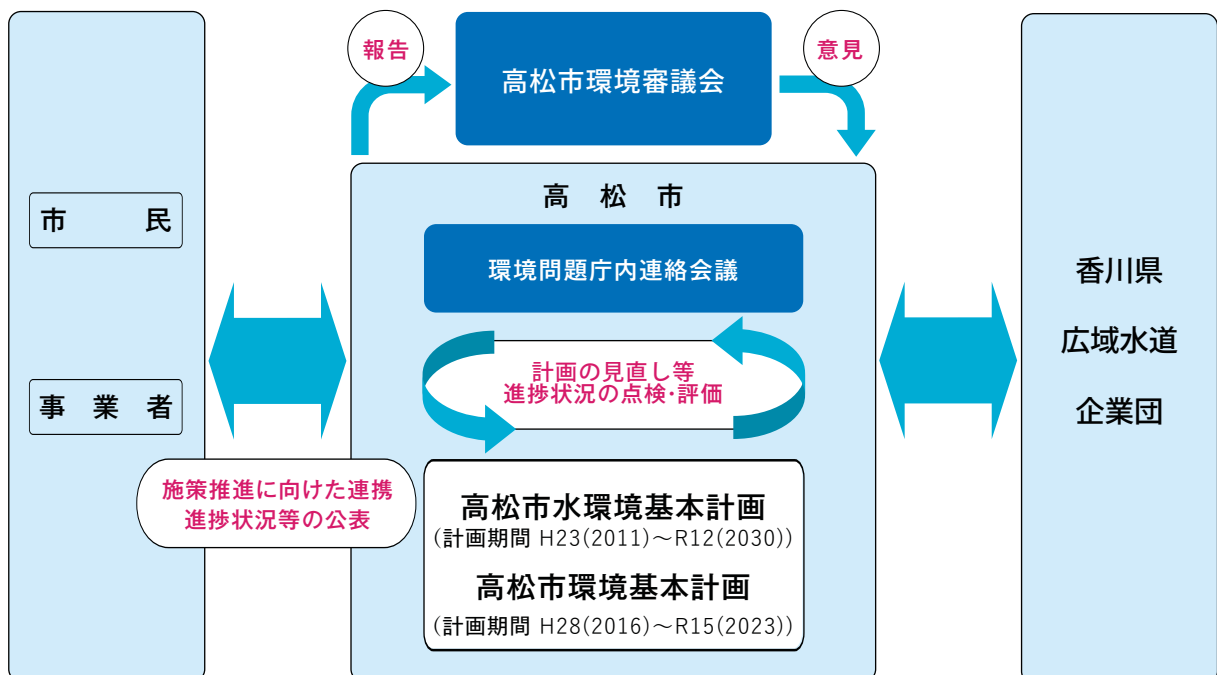


- 1 人口の減少・核家族化および少子・高齢化の進行
… 給水量の減少、給水量に占める家庭用水の割合の増大 など
- 2 気候の変動
… 渇水の頻発、ゲリラ豪雨等の発生リスクの高まり など
- 3 都市化の進展
… 緑地や水辺の減少、景観や環境の悪化 など
- 4 下水道施設の更新・整備
… 高度経済成長期に整備した施設の更新 など
- 5 東南海・南海地震発生の可能性
… 大規模震災の発生による断水等のおそれ など
- 6 水の利用と管理
… 水の持つ多面的価値を最大化するための検討の必要性 など

計画期間・計画の推進体制

基本計画の期間は、平成23年度から令和12年度までの20年間としています。また、基本計画に掲げる目標を実現するため、「高松市環境基本計画」において、一体的に具体的な施策とその目標値を定め、市内部の「環境問題庁内連絡会議」により、施策の進捗状況について点検・評価を行うとともに、学識経験者等で構成する「高松市環境審議会」に対して進捗状況などを報告し、意見をいただく中で、必要な見直しなどを行っていきます。

また、香川県広域水道企業団・市民・事業者の皆様との連携の下、取組を進めるために、毎年度、施策の進捗状況などを、市ホームページなどで、広く公表していくこととしています。



水環境基本計画の「目標」と「施策の方向性」

基本方針

1 身近な水環境の意識の強化

【目 標】

水環境意識の啓発・節水行動の促進

【施策の方向性】

水環境の大切さと節水の啓発強化や市民等の節水行動の促進に努めます。

【目 標】

環境教育の推進

【施策の方向性】

学校教育や生涯学習の場において、環境教育を推進し、水文化や水の大切さの意識強化に努めます。

【目 標】

地域や流域圏の連携による水環境意識の醸成

【施策の方向性】

上下流住民の連携・協力・交流、市民活動団体・地域コミュニティ・企業との協働などにより、水環境意識の強化に努めます。

2 水循環の健全化

【目 標】

水の有効利用

【施策の方向性】

雨水、下水処理水再生水、地下水の有効利用に努めます。

【目 標】

水源の涵養

【施策の方向性】

広域的な水源地・水源林の保全に努めます。

【目 標】

健全な水循環の実現に向けた排水処理

【施策の方向性】

污水处理施設の整備などに努めます。

【目 標】

水の生産、消費、再生、処理の連携と統合的な運営

【施策の方向性】

水環境行政の連携に努めます。



水環境基本計画の「目標」と「施策の方向性」

基本方針

3 良好な水辺環境の創出

【目標】

水域・水辺の保全

【施策の方向性】

汚染源対策の推進や污水处理施設の整備などに努めます。

【目標】

親しみやすい憩いの場としての水辺空間の創造

【施策の方向性】

潤いのある水辺空間の創造や生態系に配慮した水空間づくりなどに努めます。

4 安全で安心なまちづくりの推進

【目標】

震災等への備え

【施策の方向性】

震災等の大規模災害に備え、施設の耐震化などに努めます。

【目標】

浸水対策の推進

【施策の方向性】

雨水ポンプ場等の整備や保水機能を持つため池、水田などの保全に努めます。

5 持続可能な水の利用および管理のあり方の検討

【目標】

水に関する関係者の連携・協力・交流

【施策の方向性】

水に関する関係者の連携・協力・交流を進め、お互いに理解しあえる環境づくりに努めます。

【目標】

総合水循環システム構築に向けた検討

【施策の方向性】

持続可能な水の利用と管理のあり方について、検討を進めます。

高松市持続可能な水環境の形成に関する条例

～ 前文 ～

水は、すべての生命の源であり、生活用水をはじめ農業用水や工業用水として私たちの暮らしを支え、また、河川やため池、海岸などの水辺環境を通して憩いと潤いを与えてくれるかけがえのないものである。その一方で、干ばつや洪水、高潮など、時として私たちの生活に脅威を与える存在でもある。

私たちのまち高松は、水に恵まれない地勢や気象条件にありながら、先人たちは、水を最大限に生かし、水の脅威を免れるための工夫を凝らし、水と人との良好な関係を築いてきた。

しかしながら、経済成長による生活様式の高度化や都市化の進展により、水を大量に消費する生活に慣れた私たちは、水の大切さを忘れ、自然の水循環を阻害し、水と人との良好な関係を崩し始めている。

このようなことから、私たちは、先人たちが苦労を重ね築き上げてきた水と人との関係を見つめ直し、水の持つ多面的な価値を最大限発揮できるシステムを構築することにより、豊かな水環境を形成し、これを持続可能な形で未来の子どもたちに引き継いでいかなければならない。

ここに、持続可能な水環境の形成に関する基本理念を明らかにし、持続可能な水環境の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、この条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、持続可能な水環境の形成に関し、基本理念を定め、市、市民および事業者の責務を明らかにするとともに、持続可能な水環境の形成に関する施策の基本となる事項を定めることにより、市、市民および事業者が連携して持続可能な水環境の形成に取り組み、もって現在および将来の市民の水を通じた豊かで潤いのある生活の確保に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 水環境 水質、水量、水辺空間、生態系その他の自然的要素および伝統、文化その他の社会的要素からなる水に関する環境の総体をいう。
- (2) 水循環 降水が土壌等に保持され、もしくは地表水および地下水として流下して海域等に流入し、または大気中に蒸発して再び降水になる一連の過程に、人間の利水・治水を目的とした工夫が施された水の流れをいう。
- (3) 流域 降水が地表水として集まる区域をいう。

(基本理念)

第3条 持続可能な水環境の形成は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

- (1) 本市独自の水文化から水の大切さを学び、再認識するとともに、市、市民および事業者が自主的かつ積極的に取り組むこと。

- (2) 水を効果的かつ効率的に利用することにより水をはぐくみ、水の多面的価値を引き出すこと。

- (3) 現在の水環境を保全することのみならず、豊かな水環境を創出し、これを将来の世代に引き継ぐこと。

- (4) 水を利用し、管理する様々な主体が相互に理解し、連携協力することにより、水の利用および管理を効果的に行うこと。

(市の責務)

第4条 市は、基本理念にのっとり、持続可能な水環境の形成に関し、本市の地域特性に応じた施策を策定し、これを総合的かつ計画的に実施する責務を有する。

- 2 市は、持続可能な水環境の形成に関する市民および事業者の理解を深めるため、啓発および知識の普及等に努めるものとする。

- 3 市は、持続可能な水環境の形成に関する施策に、市民および事業者と協働して取り組むとともに、国、県その他の地方公共団体および関係団体との連携協力を努めるものとする。

(市民および事業者の責務)

第5条 市民および事業者は、基本理念にのっとり、自らの日常生活または事業活動が水環境に多大な影響を与えることを認識し、節水、水質汚濁の防止等持続可能な水環境の形成に積極的に取り組むものとする。

- 2 市民および事業者は、市が実施する持続可能な水

環境の形成に関する施策に協力するものとする。

(地域社会の役割)

第6条 地域社会においては、関係団体および地域住民が地域における水の利用および管理の在り方について協議を行うとともに、地域の水環境に関する課題について、連携協力してその解決に取り組むものとする。

(流域における連携協力)

第7条 市、市民および事業者は、持続可能な水環境の形成には流域全体での取組が重要であることにかんがみ、流域における様々な主体との積極的な連携協力を努めなければならない。

(法制上の措置等)

第8条 市は、持続可能な水環境の形成に関する施策を実施するため、必要な法制上または財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

第2章 水環境基本計画

第9条 市長は、持続可能な水環境の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、水環境基本計画（以下「基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

(1) 持続可能な水環境の形成に関する基本的な方針

(2) 持続可能な水環境の形成に関し、総合的かつ計画的に講ずべき施策およびその達成すべき目標に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、持続可能な水環境の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 市長は、基本計画を策定しようとするときは、市民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、高松市環境審議会条例（平成7年高松市条例第37号）第1条に定める高松市環境審議会の意見を聴かななければならない。

4 市長は、基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、基本計画の変更について準用する。

6 市長は、毎年度、基本計画で定めた施策の実施状況を取りまとめ、その概要を公表しなければならない。

第3章 持続可能な水環境の形成に関する基本的施策

(水循環の健全化)

第10条 市は、水循環を健全にするため、雨水・地下水の有効利用の促進、森林の保全、雨水浸透施設の設置促進その他必要な措置を講ずるものとする。

(良好な水辺環境の創出)

第11条 市は、良好な水辺環境を創出するため、生活排水対策の推進、ため池の保全および適切な管理その他必要な措置を講ずるものとする。

(持続可能な水環境の形成に関する意識の醸成)

第12条 市は、持続可能な水環境の形成に関する意識を醸成するため、水環境、節水等に関する啓発および教育活動の充実その他必要な措置を講ずるものとする。

(安全で安心なまちづくりの推進)

第13条 市は、水環境に関し、安全で安心なまちづくりを推進するため、雨水排水施設の整備、水道施設の耐震化その他必要な措置を講ずるものとする。

(持続可能な水の利用および管理の在り方の検討)

第14条 市は、持続可能な水の利用および管理の在り方を検討するため、水環境に関する関係機関および関係団体による水資源の利用調整に関する協議の場づくりその他必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

第4章 雑則

(委任)

第15条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。



高松市水環境基本計画 概要版

～未来の子どもたちに持続可能な水環境を引き継ぐために～

編集・発行：高松市市民政策局政策課水環境対策室
〒760-8571 高松市番町一丁目8番15号
電話(087)839-2142 FAX(087)839-2125
メールアドレス: seisaku@city.takamatsu.lg.jp

高松市水環境基本計画については、本市ホームページを御覧ください。
【ホームページアドレス】<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/>



我が家の水がめづくり 節水キャラクター 「タメット」